Communion in both kinds

コミュニオン イン ボス カインズ

知っておきたいキリスト教のことば （156）

二種陪餐 にしゅばいさん

キリスト教の礼拝でおこなわれる「聖餐式」は、最後の晩餐のときにイエス様がなさったことを思起し、おこなう儀式です。イエス様がなさったこととは、パンを裂き、杯を回して、共に食卓を囲むということです。

キリスト教の教派によって、そのやり方には少しずつ違いがあります。たとえばパンをウエハースにするか、食パンを使うかといったことや、杯に入れる飲み物はぶどう酒にするか、ぶどうジュースにするかという「いただくもの」の違いがあります。また杯についても、みんなで一つの杯から飲むのか、あるいは小さなおちょこのようなものを一人ひとりに配るのかという違いもあります。

そして大きな違いとして、会衆はパンだけをいただくのか、それともパンとぶどう酒の両方をいただくのかということがあります。パンだけをいただくことを「一種陪餐」、両方いただくことを「二種陪餐」といいます。

カトリック教会は長らく、一種陪餐で聖餐式をおこなってきました。その理由は聖別されたぶどう酒がこぼれたら大変なことになるからだとか、ぶどう酒が高価なのでいつも使う訳にもいかないからだとか言われています。ただし聖職者たちだけはぶどう酒もいただいていました。そのため、これは聖職者の職権乱用だという意見もあり、プロテスタント教会は信徒も同じように陪餐に与ることができる「二種陪餐」をおこなうようになりました。

近年、カトリック教会でも二種陪餐をおこなう礼拝が増えて来たそうです。聖公会でもコロナ禍のときには、一種陪餐で聖餐式をおこなった教会も多くありました。

一種でも二種でも、神さまの恵みが豊かに感じられる礼拝であればと、願います。

次回は「入信」です。お楽しみに。

「最後の晩餐」
ファン・デ・ファネス
（1460 年頃 - 1519 年）

また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。

（マルコによる福音書 14 章 23 節）